

どーせなら、好きなことで、苦しもう。

企業経営漫談士 岡野実空

バブル経済崩壊後、生活者がブランドやデザインで、より厳しく商品を選別するようになった前世紀末。これはそのデザイナーを養成する、東京デザイン専門学校の生徒募集の広告コピーです。(2000、荻 友幸) 今回は、「創造性」を要求される仕事に付き物の、「苦心」や「苦労」について考えます。

視点1: 背景と真意

戦後の高度経済成長の原動力は、旺盛なモノの需要。当初の不足から量的な充足を経て、消費者の次なる質的な要求に応えるべく、各企業が力を入れたのは、新製品開発と既存製品の改良、多品種化。それに伴い、幅広い分野で多様な「デザイン」が求められるようになりました。それはその後、商工業からアートやマンガ、アニメなどの文化にも拡大し、さらにいま企業経営にまで及んでいます。

さてその動きに沿って、1960年代に続々誕生したデザイナー養成の学校。そこで受講できるのは、「デザイン」という厳しい競争を勝ち抜いていくための基礎技術。この生徒募集の広告コピーは、「どうせ」では、「上から」になってしまう目線を、「どーせ」ならで生徒と横並びにし、そのスタート台に立つための必要条件である、しっかりとした基礎作りを気さくに呼びかけています。

視点2: 教訓と学習

「創造性」に関するバイブルは、ジェームス・W・ヤング著『アイデアのつくり方』。資料集めからその編集、孵化を経て、アイデア創出に至る過程については、すでに先のコラムで取り上げました。またそこでは、その「原理」の理解と、それを実践する「方法」の習得が特に強調されています。

さてそれに関し、最も世に知られ、同時に最も誤解されている格言は、エジソンの「天才とは1%のひらめきと99%の努力の賜物である」でしょう。才能は努力でカバーできるという誤解の広がり、当時すでに彼を悩ませていたそうですが、死後も拡大する一方で、その真意が伝わらないまま今日に至っています。それは本来、「最初のひらめき」が良くなけれ

◆教訓: シェイクスピア「マクベス」より
「楽しんでやる苦労は、苦痛を癒すものだ。」

◆参考コラム: 『三々な経営』
3-3 「創造性」を高める

ばいくら努力してもムダになるという警告で、「ひらめきを得るために努力せよ」という意味だったのです。

それは、対象とする顧客をよく知り、その要求に応える素材を吟味厳選し、自分なりに加工、調理する料理人そのもの。また、その曖昧な要求を推察し、自らの「ひらめき」を加味した料理で、顧客に「感動」を提供できるのが「一流」の証です。そのためには、好きな道の「原理」と「方法」論を習得し、ひたすら鍛錬に励むしかありません。

視点3: 異論その他

東京デザイン専門学校、得意の分野で一旗揚げたい若者の学舎です。確かに、好きなことには我慢もできますが、仕事は一人とは限りません。

今や国民的ディレクターとなった広告D社のS君は、クリエイティブ大好き人間。新製品のプレゼンが近づく日、これまた同質のスタッフに考え抜いたプランを指示し、スタッフは一斉に、その制作に走ったのです。翌日、徹夜明けのスタッフの前に現れたS君『あれは止めた』と全く別案を提示。『ふざけんな!』スタッフは全員怒ったものの、新案を見て納得。そして2日目の徹夜に入ったのです。

一人なら、好きなことで苦労はできます。でも、グループ作業では、圧倒的なリーダーがいないと、好きなことほど簡単に瓦解します。(一力 廉)

「私は一生涯、一日の仕事も持ったことはない。すべて慰みであったから」。エジソン最大の発明は、大好きなことに関する「ひらめき」を商品にする組織でした。

2020年9月21日 実空